

常磐地区・地区懇談会調査結果（7地区全体）

2007/01/25 NPO法人市民社会研究所

<p>企画者 企画者 企画者の意見（インタビュー）</p>	<p>教材 教材 実施方法 調査者のコメント</p>	<p>司会者 司会者 調査者コメント</p>	<p>参加者の話し合い 調査者コメント</p>
<p>【企画者】</p> <p>自治会長 6 その他 1</p> <p>【インタビューから】</p> <p>企画者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区懇の企画は例年自治会長の役目。</li> <li>・企画は初めてでよくわからなかった。</li> <li>・人権啓発委員と自治会長はどちらも引き受け手がないので兼務している。</li> </ul> <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組長、民生委員、老人会等に呼びかけている。</li> <li>・組長を対象にしているの、来るメンバーは毎年替わるが、それでも結局全体が参加することになるのでいいと思う。</li> <li>・子どもがテーマだが、子どもを抱えた人は夜出にくいので組長に出てもらっている。本当は若い人が参加するのがよい。</li> <li>・一般募集をしても人は来ない。</li> </ul> <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権＝同和＝難しい」のイメージが強い。</li> <li>・同和問題の結婚差別などあまり重苦しいものは意見が出ない。</li> <li>・テーマは毎年変えるようにしている。</li> <li>・子どもの事件が続くので選んだ。</li> <li>・人権入門は、身近で気づかないことが内容だから。</li> <li>・地域の高齢化が進んでいるので選んだ。</li> <li>・バリアフリーはまだやっていないので。</li> </ul>	<p>【教材】</p> <p>既成ビデオ視聴 6 オリジナルのパワーポイント 1 市パンフ「みんなで考える人権シリーズ」2 自治会長作成オリジナル資料 1</p> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴＋グループに分かれて話し合い 5</li> <li>・ビデオ視聴＋全体の話し合い 1</li> <li>・パワーポイントを見ながら話し合い 1</li> </ul> <p>【コメント】</p> <p>ビデオ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオは結婚差別等について当事者の体験ドキュメント。差別を受けている当事者を前にした話し合いは、効果が高い反面、重苦しくなる。</li> <li>・ビデオの論点が多く、司会者があらかじめ話し合いの内容を考えておかないと散漫になりがち。</li> <li>・教材自体がマナー、思いやり、人権が並列されるため、結局人権の基本概念がわかり辛い。</li> </ul> <p>オリジナル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が、自治会役員と研修内容を事前協議し、地区内公共施設を中心にバリアフリーの現状を地域住民が調査。</li> </ul> <p>その他の教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの重要な論点書が書かれているにもかかわらず、市のパンフは全く使われていない。</li> </ul>	<p>【司会者】</p> <p>自治会長2人 自治会長、人同協役員2人 人同協会長、人権啓発委員（民生委員） 人権センター職員 民生児童委員 人権啓発委員、老人会会長</p> <p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者の個性に話し合いが左右される。</li> <li>・司会者が私自身、よく人権のことがわかっていない」と言う。</li> <li>・ファシリテーターとしてグループの意見を引き出す配慮が難しい。</li> <li>・大きな声の人の話を止めることが困難</li> <li>・全員の意見を順番に聞くだけで深めるところまでいかない。</li> <li>・司会者がまず自分の意見＝結論を出す傾向がみられた。</li> <li>・参加者から意見を出させるのに苦労していた。</li> <li>・話の内容が人権からそれてきても、指導者不在のため、方向性を修正する役割の人がいない。</li> <li>・参加者の意見が反人権的なものであっても、司会者が同調したため振り回されてしまった。</li> <li>・人権センター職員が補助的に入り、要所要所で介入。話の方向を修正することで人権学習の実があった。</li> </ul>	<p>【話し合いについてのコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験談が中心となりがちだったが、当事者の話が聞けて良かったという声もあった。</li> <li>・ビデオに中の多数決の問題に焦点を当て、この地区内でおきた「以前盆踊りがあったが、「やかましい」という住民が多く、多数決の結果中止となった。」という具体例が参加者から出された。</li> </ul> <p>自分たちの問題に引きつける効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の発言は積極的で前向きなものが多かった。</li> <li>・「アジアの人は怖い。」「外国人は見た目に怖い。」「社員採用で北朝鮮籍の人を差別せず採用したが、拉致報道以後お断りしている。」「外国人は悪いところが目立つ。」などの発言が出て、反論する人はなかった。</li> </ul> <p>適切な介入がないと学習の意味がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもたちは子どもの権利を主張しているが、親の庇護の元で支えられている。」「生活面を親に依存しているのに主張が目立ちすぎ。」に終始。</li> </ul> <p>率直な意見が出ることはいいことだが、そこから深めることができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の意識は高く、「障害者はラッシュに乗車するのは迷惑。」の発言に、「その発言が人権侵害」と参加者から意見が出た。</li> </ul> <p>住民の力がついている例もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が少ないので、高齢者が過去を振り返って対比する話が多い。</li> </ul> <p>若い人の参加をどうするか。</p>